



平成30年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年10月30日

上場会社名 株式会社enish

上場取引所 東

コード番号 3667 URL <http://www.enish.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 高木 和成

TEL 03-6447-4020

四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の業績(平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	4,231	51.5	452		448		457	
29年12月期第3四半期	2,792	26.2	732		727		796	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	51.87	
29年12月期第3四半期	102.08	

(注)平成29年12月期第3四半期及び平成30年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第3四半期	2,135	1,564	70.6	167.56
29年12月期	1,682	743	41.7	89.97

(参考)自己資本 30年12月期第3四半期 1,508百万円 29年12月期 701百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期		0.00		0.00	0.00
30年12月期		0.00			
30年12月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年12月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

3. 平成30年12月期の業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

平成30年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算出ができないことから記載していません。なお、当該理由等につきましては、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年12月期3Q	9,001,600 株	29年12月期	7,801,600 株
期末自己株式数	30年12月期3Q	株	29年12月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年12月期3Q	8,826,654 株	29年12月期3Q	7,800,982 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
3. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、企業収益の回復や個人消費の持ち直しの動きがみられ、緩やかな景気回復基調が継続しております。

当社の主な事業領域である、モバイルゲーム事業を取り巻く環境につきましては、世界市場についてはアジアを中心にさらに成長し、グローバル化によるマネタイズ機会が拡大していく見通しであります。国内市場については、一定の成熟傾向は見られるものの、その市場規模は今後も拡大する見通しであります。

このような事業環境の中、当社では当第3四半期累計期間においては、ゲーム事業では、『欒坂46』初となる公式ゲームアプリ「欒のキセキ」は、累計350万ダウンロードを突破し、App Storeでは「4.8」Google Playでは「4.5」とユーザーの皆様から高い評価をいただいております。当第3四半期会計期間においては、全国のローソン店舗との連動によるコラボ企画や、映画『響-HIBIKI-』とのコラボイベント等を実施し、ゲーム内の活性化を図りました。引き続き、多くの方々に楽しんでいただけるように、1周年フェスをはじめ、リアルインセンティブの強化、コンテンツの拡充、コラボ企画等の施策を実施していくことで、収益基盤の安定化に努めてまいります。サービス開始から8年目に突入したブラウザタイトル「ぼくのレストラン2」「ガルショ☆」は、新機能の追加や継続的なコラボの実施、コストコントロールにより収益水準を維持しております。よりきめ細やかな対応を図り、安定した収益水準の維持に努めてまいります。

なお、当事業年度においては、2019年のリリースに向け、他社IPを生かしたタイトルと、自社のノウハウを生かしたオリジナルタイトルの2本を鋭意開発中であり、その開発コストが計上されております。

非ゲーム事業においては、ファッションレンタルサービス「EDIST. CLOSET」は、当第3四半期会計期間において秋モデルを公開したほか、「EDIST. CLOSET アプリ」をリリースいたしました。顧客満足度向上につながる施策や話題性を創出するコラボイベント等を実施し、収益基盤の構築に努めてまいります。引き続き、仕事や家事・育児に忙しいすべての女性に、より豊かなライフスタイルを送るサポートができるよう、サービス提供を行ってまいります。また、平成30年8月1日から9月16日までの期間、安室奈美恵さんの新しい旅立ちを応援するプロジェクト『セブン-イレブン PRESENTS WE LOVE NAMIE アプリ』は、当社が開発・運営を担当いたしました。この開発ノウハウを生かして今後の展開に向けて企画を進めてまいります。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は4,231百万円（前年同四半期比51.5%の増加）、営業損失は452百万円、経常損失は448百万円、四半期純損失は457百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて451百万円増加し、1,865百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加（前事業年度末比686百万円の増加）があった一方で、売掛金の減少（前事業年度末比216百万円の減少）によるものであります。固定資産につきましては、269百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ453百万円増加し、2,135百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べ367百万円減少し、519百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少（前事業年度末比308百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては、51百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ367百万円減少し、571百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて821百万円増加し、1,564百万円となりました。これは主に、四半期純損失を457百万円計上したものの、第三者割当による行使価額修正条項付第10回新株予約権の権利行使のより資本金及び資本準備金がそれぞれ632百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期につきましては、引き続き既存ブラウザタイトルの売上減少の制御とコストコントロールを行うとともに、『樺坂46』初となる公式ゲームアプリ「樺のキセキ」の運用に注力することで、安定した収益基盤の構築を努めるとともに、クオリティの高い新規ネイティブアプリケーションの開発を行ってまいります。

従前、通期の業績予想を開示しておりましたが、モバイルゲーム市場の取り巻く環境の変化が激しく、当社の事業も短期間に大きく変動する可能性があること等から、信頼性の高い通期の業績予想数値を算出することが困難となっているため、決算業績及び事業の概況の速やかな開示に努め、業績予想につきましては開示を見合わせます。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において重要な営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第3四半期累計期間において、依然営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローが生じております。

以上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、①収益性が高いタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することによる、売上の維持拡大、②プロダクトポートフォリオの見直し及び品質管理による収益力の強化、③資金調達や資金繰りの安定化、④経費の削減に努めてまいります。なお、平成30年1月11日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第10回新株予約権が平成30年2月15日までにすべて行使された結果、1,250,589千円の資金調達をしており、財政基盤の安定化が図られております。これらの改善策を状況に応じて適切に推進していくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	469,690	1,156,686
売掛金	793,619	577,052
商品	13,188	—
前払費用	120,158	120,469
その他	17,583	11,755
流動資産合計	1,414,239	1,865,964
固定資産		
投資その他の資産		
敷金及び保証金	239,229	241,757
長期前払費用	18,666	17,888
その他	10,090	10,090
投資その他の資産合計	267,986	269,736
固定資産合計	267,986	269,736
資産合計	1,682,226	2,135,701
負債の部		
流動負債		
買掛金	290,723	236,989
短期借入金	308,200	—
未払金	113,553	105,492
前受金	100,312	68,259
その他	74,193	108,780
流動負債合計	886,981	519,522
固定負債		
資産除去債務	49,574	49,919
その他	2,457	1,787
固定負債合計	52,032	51,707
負債合計	939,014	571,229
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,169,295	1,801,370
資本剰余金	1,168,295	1,800,370
利益剰余金	△1,635,680	△2,093,477
株主資本合計	701,910	1,508,263
新株予約権	41,301	56,208
純資産合計	743,211	1,564,471
負債純資産合計	1,682,226	2,135,701

(2) 四半期損益計算書
(第 3 四半期累計期間)

(単位 : 千円)

	前第 3 四半期累計期間 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年 9 月 30 日)	当第 3 四半期累計期間 (自 平成30年 1 月 1 日 至 平成30年 9 月 30 日)
売上高	2,792,324	4,231,350
売上原価	2,757,420	3,988,291
売上総利益	34,903	243,059
販売費及び一般管理費	767,242	695,400
営業損失 (△)	△732,338	△452,340
営業外収益		
受取利息	1,807	11
貸倒引当金戻入額	16,000	—
還付消費税等	—	8,846
その他	1,904	727
営業外収益合計	19,711	9,584
営業外費用		
支払利息	2,294	830
支払手数料	12,000	—
株式交付費	—	4,867
その他	401	145
営業外費用合計	14,695	5,844
経常損失 (△)	△727,322	△448,599
特別利益		
事業譲渡益	95,000	—
特別利益合計	95,000	—
特別損失		
減損損失	168,011	7,477
その他	5,000	—
特別損失合計	173,011	7,477
税引前四半期純損失 (△)	△805,334	△456,077
法人税、住民税及び事業税	1,717	1,719
法人税等調整額	△10,690	—
法人税等合計	△8,973	1,719
四半期純損失 (△)	△796,361	△457,797

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使請求に伴い新株式1,200,000株の発行を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ632,074千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,801,370千円、資本準備金が1,800,370千円となっております。

(セグメント情報等)

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

なお、第1四半期会計期間より事業領域の拡大により実態に即した名称にするため、従来の「モバイルゲーム事業」から「エンターテインメント事業」へセグメント名称を変更しております。